

<b>Title</b>	福祉の役わり福祉のこころ実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：2009 年度「福祉のこころ」研究講演会）
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-4：27-29
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2345">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2345</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

2009 年度 「福祉のこころ」研究 講演会  
福祉の役わり 福祉のこころ  
実施結果—アンケート集計結果の概要—

認知症高齢者のケアを中心に、高齢者福祉の実践にかかるとして「福祉のこころ」のありようを明らかにし、認知症高齢者理解への「人間福祉学」からの視点について考察を深める。



福祉・保健分野を専門とする人々が多かった。

日時 2009年11月28日(土)13時30分～16時(開場13時)

場所 聖学院大学4号館4階4401教室

【プログラム】

挨拶 阿久戸 光晴 (聖学院大学学長)

講演 1 「認知症高齢者介護の現場から」

岩尾 貢 (社会福祉法人鶴寿会専務理事、特別養護老人ホームサンライフたきの里施設長)

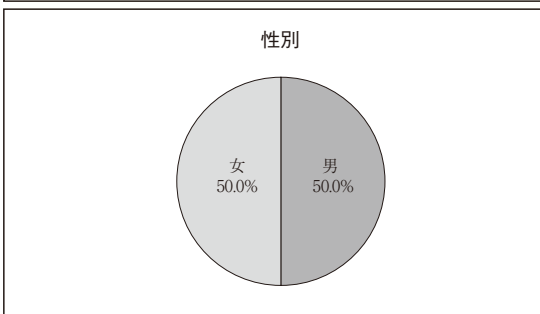
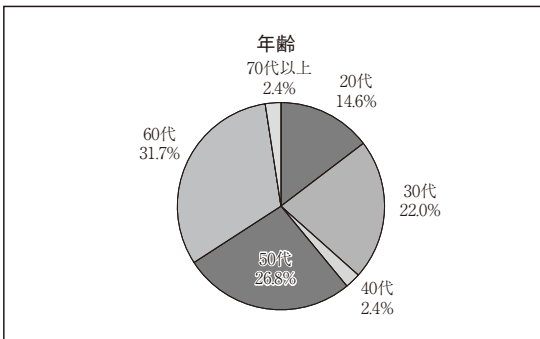
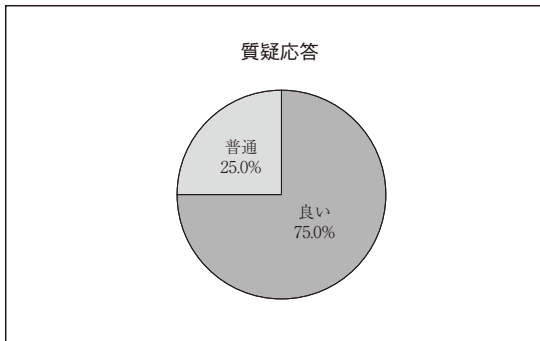
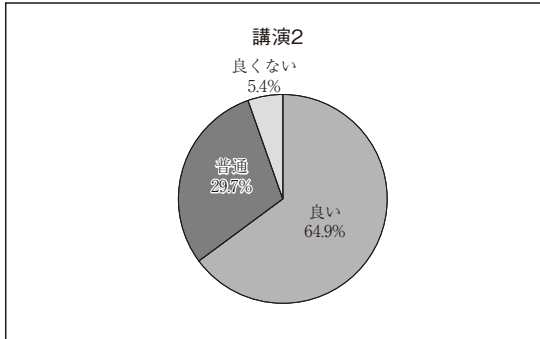
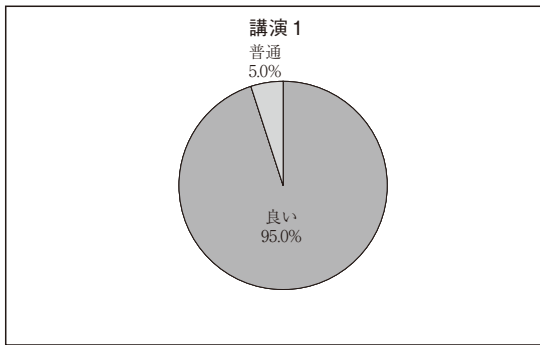
講演 2 「精神科医療におけるチームワーク、現状と課題」

平山 正実 (聖学院大学大学院人間福祉学研究科教授)

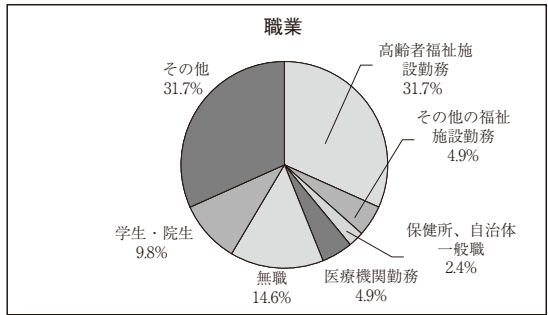
質疑応答

【結果の概要】

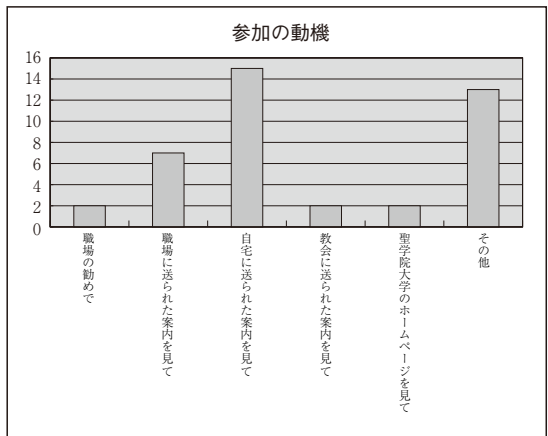
- ・参加者の人数は65名。内アンケート回答者は41名。
- ・講演 1 について「良い」が85%、講演 2 について「良い」が64%となった。質疑応答については「良い」が75%だった。



\*参加者の年齢は、40代が少ないものの、幅広い年齢層にわたった。男女は半々であった。



\*職業は「高齢者福祉施設勤務」を筆頭に保健・福祉の専門分野が多かった。「その他」の内容は、「会社員」「牧師」「教職」「大学講師」など。



\*参加の動機としては、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「職場に送られた案内を見て」。「その他」の内容は、「研修会で知って」「友人の誘い」「先生の勧め」「大学でチラシを見て」など。

### 自由意見

- ・現在、相談支援事業所に勤務していますが、いつも時間に追われ、利用者との関わりを重視できただろうかと考えさせられています。講演を聴き、改めて痛感しました。
- ・経験を豊富にお持ちである先生方のお話には言語ひとつひとつに血が通っているという印象を強く受けました。「尊厳を守る」と口で言うのは易しいですが、実際に尊厳、信頼ということばを重く受け止めました。
- ・岩尾先生の話は大変参考になりました。認知症について、私の迷っていた気持ち、事柄など、

こころの持ち方、接し方、変えていかなきゃと思いました。もっと岩尾先生の話の伺いたくなりました。先生の施設はすばらしいと思います。こんな施設で老後を過ごせたらとうらやましくなりました。

- ・どちらも現場に関わっている中での話でわかりやすかったです。認知症高齢者への取り組みはこれからの方向性を考える上でとてもためになる話でした。今日はありがとうございました。
- ・おのを捨てて相手の立場に立って考えていきたい、と思いました。地域へもっと入っていったらと思います。年寄りと障害者と子どものいる場作り…すばらしいビジョンですね。
- ・人との関わりが大切であること、とても良く分かりました。今後地域の中で“場”を作っていきたいと思います。
- ・認知症高齢者のケアについて、パワーポイントを使っての説明は良かった。入所者の明るい表情を伝えていた。盛りだくさんのお話のため、後半早口で早送りだったのが残念でした。最後に両講師よりすばらしいお話をいただくこととても喜んでます。
- ・ボランティア実践に取り組んでいるため、具体的に参考になりました。ありがとうございました。
- ・チームケアも大切ですが、地域の人々の理解や、信頼関係もそこには必要になってくるのではないかと思います。「生活のしづらさ」を抱えることは、誰にでも起こり得ることと考えるならば、これからの時代は、コミュニティワークやコミュニティケアがますます求められるのではないのでしょうか。チームワークもコミュニティワーク、コミュニティケアも日々の試行錯誤、関係の積み重ね、(人間関係、社会資源、サポートも含める)の中から生まれてくるのかもしれません。まずは「場」を作ることから始めたいと思いました。「相互に補充し合う」「分に応じる」こと「報・連・相(ハウレンソウ)」大切にしたいと思います。
- ・現在、上尾市のコミセンで高齢者の憩いの場(シルバーサロン)でボランティア(ボランティアされる方も兼ねる)をやっているが、講演1は

大変興味深く聴講した。市の高齢課、地域包括支援センターの係員にもぜひ聞かせてもらいたい。

- ・講演1について、岩尾先生の講演はとても素晴らしい講演ありがとうございました。できましたら出席者も一緒に話し合えるグループワークや懇親会などがあれば幸いです。今後もこのような研修会を楽しみにしていますのでよろしくお願いいたします。  
講演2について、素晴らしい先生だと思うのですが、淡々と話をされていて聞いていて心に響く言葉、ひきつけるものがなく、退屈でした。すみません。
- ・一時間で一つのテーマというのは非常に物足りなさがあります。テーマによっては“投げかける一つの標題”を議論するようなものでも開かれたらどうでしょうか。
- ・時代の必要に応じた内容であり、大変意義深いものでした。ありがとうございました。
- ・認知症については分りやすく勉強になりました。
- ・昨今、講演会ではパワーポイントを使うことが普通となりましたが、必ずしも有効とはいえないという場面がみられました。講演者は与えられた時間の中で講演に集中した方がよかったように思えます。パワーポイントに関わることで集中できなかったのではないのでしょうか。
- ・講演1の時間をたくさんとって、症例をもっとたくさん聞きたかった。介護まっただ中の人間のケア施設の情報がほしい。現実に直面している人間にとって生の情報および、こういう講演などが息抜きになるものです。  
講演の場所の看板などがなく、わかりづらかった。テキストコピーは大変良かった。

---

聖学院大学総合研究所 Newsletter

Vol.19-4,2009

22年2月27日発行

発行人 大木 英夫

発行所 聖学院大学総合研究所

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL: 048-725-5524 FAX: 048-781-0421

e-mail: research@seigakuin-univ.ac.jp

Homepage: <http://www.seigakuin-univ.ac.jp>

---